

取扱貨物量 過去最高を記録

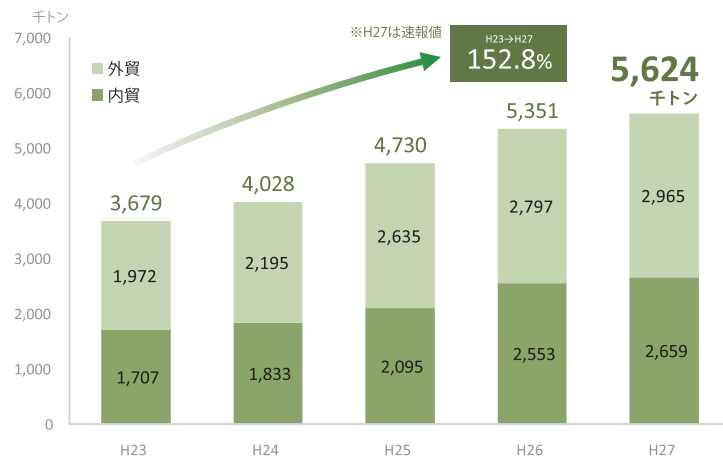
取扱貨物量 3年連続過去最高の約562万トン

合計 562万4,655トン(前年比105.1%)
輸出 29万1,592トン(前年比114.4%)
輸入 267万3,878トン(前年比105.2%)
移出 30万9,079トン(前年比90.4%)
移入 235万106トン(前年比106.3%)

石油製品やLNGなどのエネルギー関連貨物が約20万トン(前年比107.5%)増加したことなどから、取扱貨物量は3年連続で過去最高を更新しました。

特に石油製品は、平成26年10月に苫小牧埠頭(株)のオイルタンクの増設が完了し、本港から札幌圏への供給体制が強化されたことなどから、約14万トン(前年比113.7%)の増加となりました。

また、木材チップや金属スクラップ、鉱産品などが増加しました。



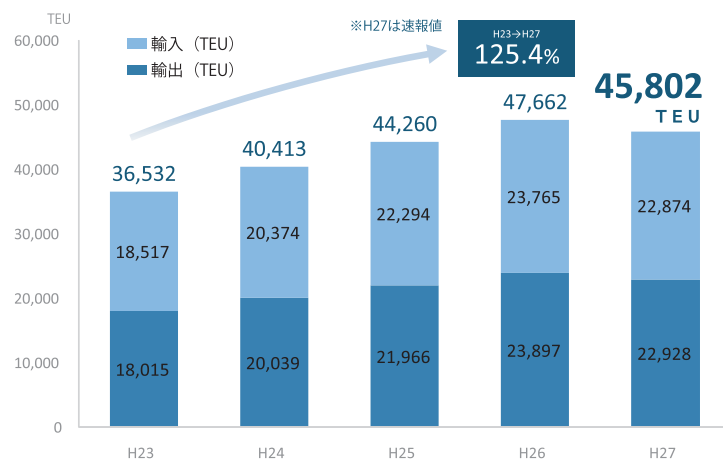
外貨コンテナ取扱個数 45,802TEU

取扱個数(TEU) 取扱貨物量(トン)
合計 45,802TEU(前年比96.1%) 合計 301,101トン(前年比99.5%)
輸出 22,928TEU(前年比95.9%) 輸出 169,181トン(前年比100.6%)
輸入 22,874TEU(前年比96.3%) 輸入 131,920トン(前年比98.2%)

本港の主要取扱品である水産品の輸出が落ち込んだことや、空コンテナの減少などから、取扱個数は前年を下回りました。

輸出は、水産品や再利用資材が減少した一方、紙・パルプや衣服・身廻品・はきものが増加し、実入りコンテナの取扱個数は、前年比99.7%とほぼ横ばいで推移しました。

輸入は、その他輸送機械が減少した一方、木製品や畜産品が増加し、実入りコンテナの取扱個数が前年比95.4%と減少しましたが、取扱貨物量(トン)は前年比100.6%と微増しました。

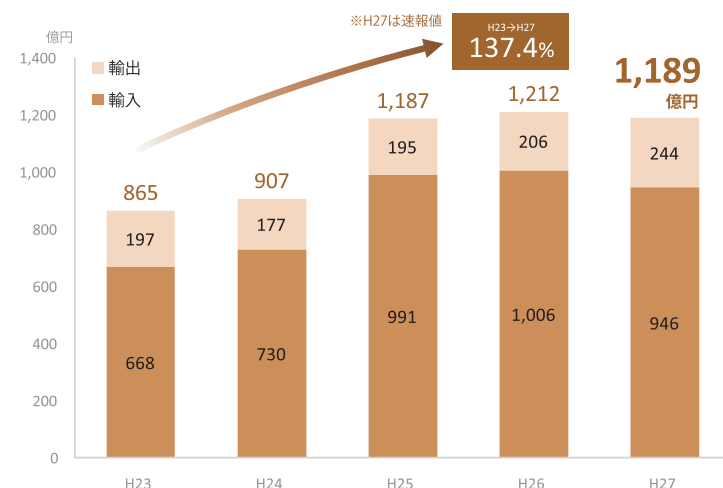


貿易額 約1,189億円

総額 1,189億3,743万円(前年比98.1%)
輸出額 243億5,691万円(前年比118.4%)
輸入額 945億8,051万円(前年比93.9%)

世界的な原油価格の下落により、石油及び同製品並びに天然ガス及び製造ガスの輸入額が減少したことなどから、輸出入総額は前年比98.1%で6年ぶりに前年を下回りました。

輸出額は、金属くずが減少したものの、一般機械(前年比151.2%)や紙類及び同製品が増加(前年比350.0%)し、前年比118.4%となりました。





Interview

北海道産米の“鮮度”と“真価”を海外へ

株式会社 **Wakka Japan**

— 会社概要についてお聞かせください

当社は、北海道などの日本産米を販売する専門店「三代目俵屋 玄兵衛」を海外で展開しています。2009年に香港で日本産米の販売を開始し、現在はシンガポール、台湾にも拠点を設け事業を拡大中です。日本産米の輸出版売実績も年々増加し、2013年に385トン、14年は568トンと過去最高を記録しました。

— 製品・サービスの特徴について

海外の方に、日本産米の本来のおいしさを伝えたいというブランド理念のもと、鮮度には特にこだわっています。契約農家やJAなどから購入した道産米を、玄米のまま冷蔵コンテナで温度管理をして輸出します。精米機も併せて輸出し、現地で受注後、出荷直前に精米することで新鮮な商品を提供しています。

主な顧客は日本料理店や個人顧客会員で、EC※の普及もあり、海外の個人顧客会員数は1万人を超えるほどにまで増えています。

各拠点には米のソムリエと呼ばれる米食味鑑定士が在籍し、米のおいしい炊き方を指導するなど、日本産米の正しい知識や食文化の啓蒙活動にも取り組んでいます。



取締役 最高執行責任者 (COO)

伊藤 聡 さん

また、生産者と海外消費者の距離を近づけたいという思いから、インターネットを通じて寄せられた商品の感想を生産者にフィードバックし、品質のさらなる向上を図っています。おかげさまで、在留邦人のお客様からは、「日本で味わう以上においしい」と好評を得ています。

※EC…インターネットなど電子的な手段を介して行う商取引の総称

海外での日本食需要の増加などを背景に、北海道産品のさらなる輸出拡大が期待される中、石狩湾新港管理組合管理者の高橋はるみ北海道知事は、道産食品の輸出額を1,000億円に拡大する目標を掲げています。

石狩湾新港は、北海道経済の中心地である札幌圏に位置し、港の背後には北海道最大級の冷凍冷蔵倉庫が集積するなど、輸出拠点としての役割が期待されています。今回は石狩湾新港から北海道産米を輸出している事例をご紹介します。



販売先であるシンガポールの日本料理店



— 石狩湾新港のご利用状況について

石狩湾新港から、20フィートコンテナで月に数本を輸出しています。石狩湾新港の背後圏に米の一大産地があり、また、石狩湾新港地域内に当社の保管倉庫があるため、陸送距離の短縮により輸送コストが抑えられ、価格競争力向上のメリットを享受できることが石狩湾新港を輸出拠点港に選んでいる理由です。

今後、コンテナ航路の便数や寄港地が増え、さらに利便性の高い港になることを期待しています。



海外の現地で精米することで高鮮度の米を提供



コンテナの積み込み作業

— 最後に

今年の1月に、ハワイ州へ道産の「ななつぼし」を初めて出荷し、今秋までに2015年産米110トンの輸出を計画しています。日本産米に対する海外消費者の評価は高く、市場拡大の余地は十分にあり、今後は、米国本土やシドニーなどに進出していきたいと考えています。また、海外向け米の生産に特化した農業生産法人の設立も検討しており、より多くの海外の方に、世界一の日本産米を広く紹介し、本格的な日本食文化の普及に貢献していきたいです。

新たな定期コンテナ航路が就航

外貿定期コンテナ航路は3航路・週3便に

平成27年10月、長錦商船が北日本～釜山間を結ぶサービスを開設し、同月29日に第1船となるコンテナ船「シノコーテンジン」が石狩湾新港に初入港しました。

石狩湾新港には、興亜海運と高麗海運が共同運航する中国・韓国航路（2航路・週2便）が開設されており、今回の新規韓国航路開設により、外貿定期コンテナ航路は3航路・週3便となりました。

新航路はウィークリーサービスで、石狩湾新港、釜山港、釜山新港、仙台塩釜港、八戸港、苫小牧港の順に寄港、石狩湾新港には毎週金曜日に寄港します。



石狩湾新港 外貿定期コンテナ航路

2016年2月時点

韓国・中国航路

※投入船や代理店など、詳細は石狩湾新港ウェブサイトへ

運航社	寄 港 地	便数	船名
高麗海運 (KMTC) 興亜海運 (HEUNG-A) [共同運航]	石狩 (木金) / 苫小牧 (土) / 釜山 (月火) / 釜山新港 (火水) / 光陽 (水) / 連雲港 (金) / 青島 (土) / 釜山 (月火) / 釜山新港 (火) / 石狩 (木金)	週 1 便	SUNNY ACASIA HYPERION
	石狩 (火) / 苫小牧 (水木) / 室蘭 * (木) / 釜山 (土日) / 釜山新港 (日) / 光陽 (月) / 天津新港 (水木) / 釜山 (土) / 釜山新港 (土) / 石狩 (火) * 室蘭寄港は SUNNY LILY のみ	週 1 便	SUNNY LILY INTRA BHUM

韓国航路

運航社	寄 港 地	便数	船名
長錦商船 (SINOKOR)	石狩 (木) / 酒田 (土) / 秋田 (日) / 釜山 (火) / 釜山新港 (水) / 釜山 (金) / 仙台 (月) / 八戸 (火) / 苫小牧 (水) / 石狩 (木)	週 1 便	CONTSHIP DAY STAR PLANET

コンテナヤードの整備に着手

増加するコンテナ貨物需要に対応するため、コンテナヤードの整備に着手しました。
平成27年度からリーファーコンセントの増設とコンテナ対応の舗装に着手し、以後、順次整備を進め蔵置能力の拡大を図る予定です。



機能強化が進むエネルギー基地「石狩湾新港」



昨年、北海道初のLNG火力発電所の建設が着工されたほか、港湾区域内での洋上風力発電の事業予定者が決定するなど、石狩湾新港は北海道の日本海側のエネルギー供給拠点として、一層重要な役割を担うことが期待されています。



LNG火力発電所 1号機本格着工

昨年8月18日、北海道電力(株)が電気事業法に基づくLNG火力発電所の工事着工届を経済産業省に提出しました。2014年から地盤改良などの1号機(約57万kW)の準備工事を開始していましたが、これにより、2019年2月の運転開始に向けて、発電所の建屋の建設やガスタービンの据え付け工事などが進められることとなりました。

また、2号機(約57万kW)は2018年11月に着工、2021年12月の運転開始を、3号機(約57万kW)は2025年11月に着工、2028年12月の運転開始をそれぞれ予定しています。

石狩湾新港地域 最大級の太陽光発電が稼働

石狩湾新港地域で建設が進められていた大規模太陽光発電所(メガソーラー)が昨年11月に稼働しました。発電所は、石狩新港機械金属工業協同組合が設立したIMCソーラー(株)が事業運営を行います。総事業費は約7億円で、約3.2ヘクタールの敷地に、太陽光パネル11,520枚を設置。年間の発電量は約181万kWhで、一般家庭約500世帯が年間に消費する電力量に相当します。

洋上風力発電の事業予定者決定

石狩湾新港管理組合が公募を行っていた港湾区域内での風力発電施設の設置運営に関する企画提案について、2015年8月27日、事業予定者に(株)グリーンパワーインベストメントを代表事業者とするグループに決定しました。

総事業費約630億円で、北防波堤外側の約500ヘクタールに10万kW規模の発電所の建設を計画しており、2017年夏頃から着工、2020年春頃に運転開始を予定しています。

実発電量の高いソーラーフロンティア製のCIS太陽電池(SF-170S)を使用

